

【Kraken Technologies: 概要資料】



Krakenとは

Krakenは、エネルギー業界における次世代のオペレーティングシステムです。AIを活用し、クラウドネイティブで構築された唯一の「エンドツーエンド型」プラットフォームとして、ユーティリティ事業者のデジタル化と業務変革を支えています。

従来の複雑で老朽化したシステムを一掃し、より柔軟で迅速なサービス提供を可能にします(例: E.ONはKraken導入により17の旧システムを一つに統合)。

テクノロジーの特長

- 毎日150億件以上のデータを処理する高度な機械学習エンジンを搭載
 - 英国では30万台超のEVの充電を自動制御(調整可能電力2GW、ロンドン規模の都市をピーク時間帯にまかなえる規模)
 - 日々200回のソフトウェアアップデートを実施(1回ごとに17.5万の自動テストを実行)
 - 法規制や市場変化への対応が迅速で、継続的に機能進化が可能
-

イノベーションを支える基盤

Krakenは英国のエネルギー業界において、以下のような先進的な取り組みの基盤として機能しています：

- Zero Bills Homes(光熱費ゼロ住宅)
 - Magic Ink(自動契約変更技術)
 - Fan Club(風力発電地元連動型料金)
 - Saving Sessions(節電インセンティブプログラム)
 - Smart Flex EVタリフ(動的EV料金)
-

顧客移行(マイグレーション)の実績

- Krakenはこれまでに**40回以上**の大規模な顧客基盤移行に成功しており、業界でも比類ない実績を誇ります
 - E.ON Nextでは、2年間で790万件のメーター移行を完了。17の旧システムからの統合により、約2億ポンドの赤字を1億ポンドの黒字に転換。Trustpilotスコアは1.2 → 4.5に改善
 - EDFでは、580万件の移行をわずか15ヶ月で達成し、E.ONを上回るスピードを実現
 - 一方、他社の類似移行は年単位の時間を要し、スケーラビリティや規制対応力に課題が見られます
-

グローバル展開と成長性

Krakenは2015年(Kraken Technologies Japanは2022年)創業の若い企業でありながら、現在では：

- 英国の電力アカウントの50%超、水道アカウントの20%を管理
- オーストラリアでは電力市場の3分の1をカバー
- EDF、E.ON、Octopus Energy、Origin、東京ガスなど、世界の主要エネルギー企業に導入
- 世界27カ国に導入実績があり、契約済み顧客アカウントは**7,000**万件超
- 英国内では、GDPの1~2%に相当するエネルギー取引を処理
- 再生可能エネルギー産業が2030年までに2兆ドル市場になる中、Krakenはその中核インフラを担う存在です

エネルギー転換の中核に

今後10年のエネルギー業界の変化は、過去100年を上回ると予想されています。Krakenは、以下のような未来の変化を支えるOSとして設計されています：

- 電気自動車の普及
- 電化された暖房（ヒートポンプなど）
- AI・データセンターによる電力需要増
- 分散型電源と需給の柔軟性（フレキシビリティ）の最大化

Krakenは、スマートな需要管理と地域分散型のクリーンエネルギーシステム（VPPなど）を可能にします。

実績・スケール

- ユーティリティ規模の発電資産：**40GW**以上をリアルタイムで管理（一般家庭7,000万世帯分に相当）
 - EV充電管理：約30万台／1.9GW超（マンチェスターとバーミンガムを同時にカバーできる規模）
 - 直近1年間でのCO₂削減量：**1,500**万トン以上（需給調整による排出回避）
-

クライアントの声（一部抜粋）

「Kraken導入により、これまで10年間できなかった革新的商品を1年でいくつも実現できた」

— EDFリテール部門ディレクター Richard Hughes氏

「英国史上最大かつ最速の顧客移行プロジェクトだった。しかもパンデミック下で、顧客満足度も“Excellent”を維持」

— E.ON UK CEO Mike Lewis氏

「Krakenチームは、SAPが3～4ヶ月かかる変更を2～3週間で実装した」

— Origin Energy GM